

財務事務を通して行う 組織マネジメントモデルの提案

—エコを視野に入れた教育環境整備の実践から—

生駒市立生駒小学校 主査 吉田満里子
Yoshida Mariko

要旨

子どもたちのよりよい教育環境の整備に向けて、有限である学校資源の効率的運用を達成するためには、組織マネジメントの手法を取り入れた教職員全員による取組が必要である。学校事務職員が「エコを視野に入れた教育環境の整備年間計画」を作成し、教職員に提案を行い、教員との協働で取り組んだところ、資源の効率的運用に成果が上がった。今回の実践事例を基に作成した「生駒小型教育環境整備システム」を、エコを視野に入れた教育環境整備の組織マネジメントモデルとして各学校に提示することを目指す。

キーワード： エコに対する意識の向上、教育環境の整備、エコボーナス、組織マネジメント、教員との協働、

1 はじめに

本校は明治7年に創立され、今年で142年目を迎える生駒市で最も歴史の古い学校である。大阪のベッドタウンとして児童数が増加していた時期もあったが、近年は児童数の増減も安定し、全校児童数が約600名となっている。

学校事務に関しては、平成23年度までは県費事務職員2名配置で、平成24年度からは県費学校事務職員1名、市費臨時学校事務職員（週3日勤務）1名の配置体制となり、二人で仕分けして行っていた業務内容を、協働して行うようにしている。しかしながら、教員との協働は、教員の教育活動を見ながら「学校事務職員としてできることはないか」を考え、学校行事や授業に必要な物品を、その都度気付くと臨機応変に対応し、準備するといった状態にとどまっていた。

平成23年度独立行政法人教員研修センター主催の「学校組織マネジメント指導者養成研修」に参加する機会を得て、学校事務職員の果たすべき役割を改めて考えることができた。生駒市では、平成22年度から「環境マネジメントシステム」を導入し、市全体でエコ活動に取り組んでいる。また、小中学校・幼稚園の光熱水費節減額を備品購入費で各校に還元する「エコボーナス制度」を平成24年度から導入している。そこで、「エコボーナス制度」を活用しながら、研修で得た成果を基に、学校事務職員の専門性を生かした教員との協働によるエコを視野に入れた教育環境の整備ができるシステムづくりを研究、開発し、その成果を各学校にモデルとして提示できないか

考えた。

2 研究目的

子どもたちのよりよい教育環境の整備に向けて、有限である学校資源の効率的運用を達成するためには、組織マネジメントの手法を取り入れた教職員全員による取組が必要である。学校事務職員の作成する教育環境の整備年間計画を教員に提案し、組織マネジメントの手法を取り入れて教職員全体の組織的な取組を実践する。この実践を検証、分析することで得られた効果を踏まえて、エコを視野に入れた教育環境整備の組織マネジメントモデルを提示することを目指す。

3 研究方法

- (1) 組織マネジメント手法の研究
- (2) 今までの取組の成果と課題の分析
- (3) エコに関する教職員対象のアンケート第1回調査実施（5月）の結果と分析
- (4) 教員との協働による「エコを視野に入れた教育環境の整備年間計画」の提案
- (5) 教員との協働による取組の実施と検証
- (6) エコに関する教職員対象のアンケート第2回調査実施（10月）の結果と分析
- (7) 「エコを視野に入れた教育環境整備の組織マネジメントモデル」の提示

4 研究内容

(1) 組織マネジメント手法の研究

平成23年度独立行政法人教員研修センター主催の「学校組織マネジメント指導者養成研修」において、竺沙（2012）は、「学校組織マネジメントとは、個人が単独でできない結果を達成するために、他人の活動を調整する一人ないしそれ以上の活動のことであり、求める目的に向かって効率的・効果的に動くために、資源（人、もの、金、情報）を統合し、調整することである。そして、財務マネジメントとは、予算の編成、執行、評価の組織的な営みである。」と説明している。つまり学校においては、特色ある学校づくりを推進するため、教育目標実現に向けて、どのような取組を行うか、そして、どのような効果が期待できるかといったことを整理し、具体的取組を実践することが必要であり、実践した内容については必ず検証を行い、事業の継続、拡充、縮小、廃止を判断するといったPDCAサイクルが有効であるということである。

(2) 今までの取組の成果と課題の分析

まず、平成24年度に、公費の予算書と決算書を全教職員に配布し説明することを行った。公費が年々厳しい状況にあることは、教員も感じているところであったが、予算書と決算書を配布し職員会議において学校事務職員が説明することで、財務に対する教職員の理解が得られ、学校全体で協力しながら、より効果的に予算を執行できると考えたためである。平成27年度も、5月の職員会議で今年度の予算書を配布し、事務職員から今年度の予算執行計画について説明を行った。特に電気代や水道代等の光熱水費については、「エコボーナス制度」の配当に影響するため、平成24年度から平成26年度までの使用量の推移について現状を整理し、教職員全員に報告した。

学校事務職員としてはこれらの取組によって、教員が財務状況についてある程度理解が進んだと捉えていたが、計画的に全教職員が組織として協働して取り組み、その成果について検証し、

さらに今後の取組を計画するといった、学校組織マネジメントの活用までは到達していなかった。

(3) エコに関する教職員対象のアンケート第1回調査実施（5月）の結果と分析

エコに対する教職員の意識についてのアンケート調査を5月に実施し、その結果をグラフに表したもののが図1から図5である。併せて、光熱水費の年間支出額や消耗品の単価についてのアンケートも行った。なお、アンケート結果については「事務だより」を発行し、教職員に配布した（資料1参照）。

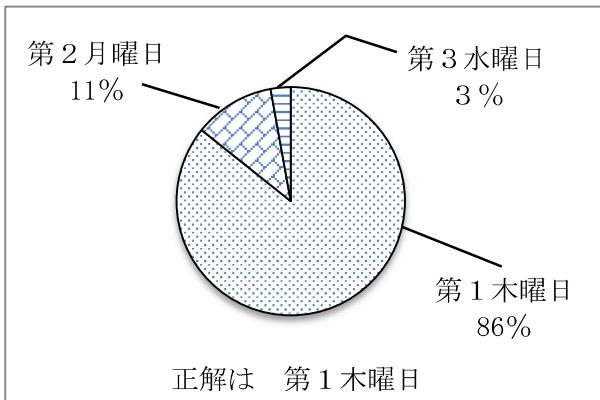


図1 毎月1回ある古紙回収日はいつかご存じですか

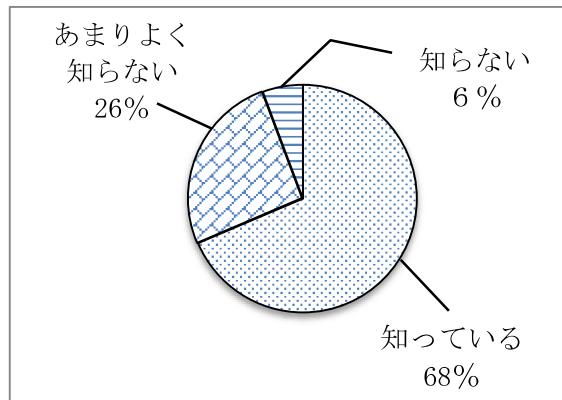


図2 エコボーナスを知っていますか

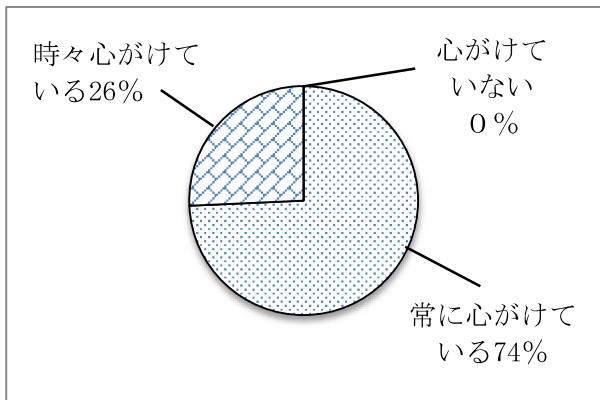


図3 節電・節水を心がけていますか

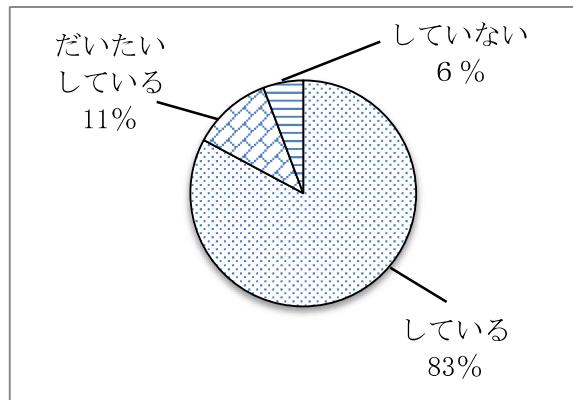


図4 印刷ミスをした用紙は捨てずに古紙や裏紙にまわしていますか

図1では、「古紙回収日が第1木曜日である」と回答した教職員の割合が全教職員の86%、図2では、「エコボーナスを知っている」と回答した教職員の割合が全教職員の68%、図3では、「節電・節水を常に心がけている」と回答した教職員の割合が全教職員の74%、図4では、「印刷ミスをした用紙を捨てずに古紙や裏紙にまわしている」と回答した教職員の割合が全教職員の83%であった。これらの項目結果から、教職員のエコに対する意識の高さがうかがえた。しかし、図2をみると「エコボーナス制度」が導入されて4年目になるが、「あまり良く知らない」や「知らない」と回答した教職員の割合が全教職員の32%であり、改めて「エコボーナス制度」について全職員に説明する必要性を感じた。また、図3及び図4をみると、日頃から節電・節水を心がけていたり、紙のリサイクルに努めていたりする教職員の割合が高く、今後教職員の異動で新しい教職員が着任した際も、継続して取り組んでいけるようにしたいと考えた。

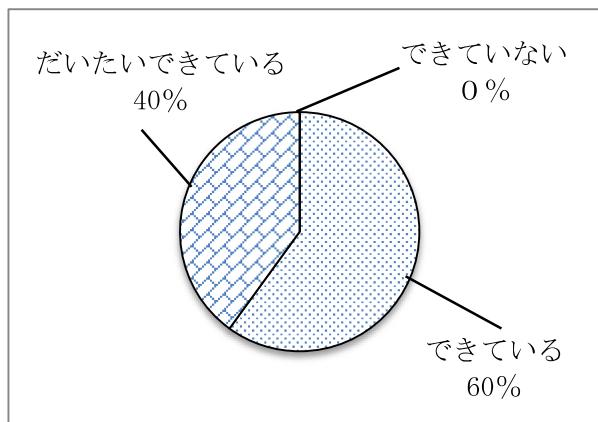


図5 ごみの分別はできていますか

知及び、教職員全員で行うエコについての取組の必要性を確認した。

(4) 教員との協働による「エコを視野に入れた教育環境の整備年間計画」を提案

まず、「エコボーナス制度」の周知やゴミ分別の仕方の周知などを組み込んだ、「エコを視野に入れた教育環境の整備年間計画」(以下「年間計画」という。)を作成し、職員会議で提案し、全教職員の共通理解を図った(資料2参照)。なお、この年間計画には、「教員が行うこと・学校全体で行うこと」「事務職員が行うこと・その他の機関に依頼すること」に加え、児童が個々に取り組む活動も想定して、「児童向けに行うこと」の3項目に分け、一年を通してバランスよく取り組めるよう配慮した。

特に周知については、教職員向けに、「エコボーナス制度」はどういうものなのか、今まで「エコボーナス」でどういった備品を購入したのか等を事務だよりに掲載し、節電やエコの取組を行うことで備品が購入できることを説明する機会を設定した（資料3参照）。

また、児童向けには、全校朝の会で校長より説明し、電気や水は大切な資源であり大事に使わなければならないこと、児童が節電・節水に努力した結果、生駒市から「エコボーナス」を獲得し、学校で使用する道具が購入できていることなど、学校全体でエコに取り組んでいくことの確認を行う機会を設定した。

(5) 教員との協働による取組の実施と検証

「年間計画」の中から、特に教員との協働によるエコに関する取組を紹介する。

ア エアコンフィルター・黒板消しクリーナーの定期的な掃除の実施

エアコンフィルターの清掃を6月に、黒板消しクリーナーの清掃を各学期末に、年間計画の中に清掃の日を組み込んで実施した。今まで掃除をする時期も決まっておらず、誰かが気付いてやってくれるだろうという状況で掃除が行き届いていなかった。年間計画の中に、エアコンフィルター・黒板消しクリーナーの清掃の日を組み込んで確実に清掃を実施することで、電気代の節約や機械の故障を防ぐことにつながった。

イ ボランティア・エコ委員会からのビデオ放送

児童会活動の一つであるボランティア・エコ委員会では、担当教員が、学校の光熱水費使用量について児童に説明を行い、どんな活動をしたいか問い合わせた。その際、年度当初に学校事務職員の提供した本校の光熱水費使用量データを活用した。その結果、「エコを呼びかけるビデオを作成したい。」という意見が児童から上がり、委員会活動として「エコに関するビデオの作成」に取

図5では、ごみの分別について、「できている」と回答した教職員の割合が全教職員の60%、「だいたいできている」と回答した教職員の割合が全教職員の40%であったことから、ごみの分別に悩んだときに確認できるものが必要であると分かった。また、光熱水費の年間費用やゴミ袋、トイレットペーパーの代金についても、正解率は全教職員の約半数もしくは3割程度という結果であった（資料1参照）。

上述のアンケート調査の結果から、課題として「エコボーナス」の周知、ごみ分別の仕方の周

り組んだ。制作途中に児童から「水道を使うときは、鉛筆ぐらいの細さで水を出すといいそうです。」という発言があったことを担当教員から聞いたが、児童のエコについて自ら情報収集している様子が見られ、学校事務職員としても大変嬉しい気持ちになった。

ウ ごみの分別・コピー機の便利な使い方などの説明図作成

ごみの分別・コピー機の便利な使い方などの説明図を8月に作成した。クの水道蛇口の部品を購入する際に掲示板用にプラスチック段ボールと一緒に購入し、教員と協働して印刷室に設置し、説明図を掲示した（資料4参照）。青いプラスチック段ボールが掲示物を引き立て、教職員からも見やすくなったと好評であり、ごみの分別も進んだ。

エ ミックスペーパーの収集

ミックスペーパー（小さい紙）の収集を、7月から実施した。以前より、段ボールや空き箱、裏紙として使用できない紙などは分別して古紙回収に出していたが、職員室の机上付近で出るミックスペーパーは収集できていなかった。古紙回収の収益金が児童図書の購入に役立てられていることを教職員に説明し、協力を呼びかけ、机の横に古封筒をつるしてミックスペーパーの収集を行った（資料4参照）。もえるごみを減量し、リサイクルが促進できた。また児童から、「家でミックスペーパーを集めているが、学校では集めないのでですか。」という質問があり、今後は教室でも取り組んでいけるよう全教職員で共通理解を図った。

オ グリーンカーテンの育苗及び維持管理

グリーンカーテンについては、数年前から取り組んでいるが、今年度も職員室ベランダにゴーヤの苗を植え、6月から9月まで教職員で維持管理を行った（資料4参照）。見た目の涼しさだけでなく、実際にグリーンカーテンをしているところと、グリーンカーテンのしていないところでは、ベランダの気温の差が2度もあり、省エネにも大変役立った。そして、今年度は生駒市主催の「緑のカーテンコンテスト」で審査員賞を受賞することができ、来年度以降もこの取組を是非続けていこうという声が上がった。

カ 校舎案内図の作成

今まで電話や正門に設置しているインターфонで校舎の入口の位置を尋ねられることがよくあり、その説明や2階の職員室から正門まで迎えに行くのに時間を要していた。そこで、校舎案内図を、当初学校事務職員が作成する予定だったが、教務主任から校舎周辺地図も入れた分かりやすい案内図の提案を受け、教務主任が作成し、正門と北門の2箇所に設置した（資料5参照）。その結果、応対時間の削減に役立つとともに、来校者に親切な学校となった。

キ 転出書類マニュアルの作成

転出書類マニュアルを教務主任と学校事務職員が8月に作成した（資料5参照）。マニュアルを作成することで正確な処理ができ、送付忘れ等による再送付のための郵送料も削減できた。

ク 水道蛇口の交換

水道蛇口の交換を8月に実施した。校内には、46か所の旧式蛇口があったが、予算的に一斉交換は難しかったため、今年度は使用頻度の高いところから15か所を交換した。業者に交換を依頼すると15か所で約15,000円かかるため、市費事務職員とホームセンターを数か所まわり、安価で使いやすいもの（1つ300円）を購入し、交換作業は教頭が行った（資料5参照）。水道蛇口の交換を実施した後、掃除時間に校舎内を巡回してみた。手洗い場で掃除をしていた児童から「このレバーはなぜ換わったの。誰が交換してくれたの。」「使いやすくなった。」などの声を聞き、「手

が汚れても水を止めやすいように、教頭先生が夏休みに交換してくれたよ。水はこまめに止めてね。」と説明を行った。このことから、実際に学校の施設設備を使っている様子を見ることや、児童の生の声を聞くことが学校事務職員にとって大切であると実感した。

ケ 児童向けエコクイズの作成

児童向けエコクイズを学校事務職員が作成し、職員室前廊下に掲示した（資料6参照）。職員室でクイズを制作している際に教員から、「このクイズを『わくわくキッズ』の始まりのクイズに使ったら子どもたちも注目するのでは。」というアドバイスをもらった。『わくわくキッズ』とは、生駒小学校で17年前から行っている保護者主催の祭りで、毎年児童が大変楽しみにしている。児童に、祭り開始の際に行っている三択クイズになるということを知らせると、職員室前廊下の掲示板に集まって、クイズをメモしていく児童も見受けられ、想像以上にエコを意識している様子がうかがえた。また、祭りの当日には、クイズの内容を保護者にも知ってもらうことができた。教頭からは、「この取組を他校にも紹介してあげるといいですね。」というアドバイスをもらった。

コ 環境に関する本の読み聞かせ

環境に関する本の読み聞かせについて、毎年、11月の読書月間に校長が読み聞かせを行っていることもあり、今年度は、学校図書館司書（週2日勤務）に協力を依頼し、校長と学校図書館司書で、『わたしがぼくがちきゅうのためにできる10のこと』という環境に関する絵本を選定し、読み聞かせを行った。「部屋を出る時、わたしはぼくは……電気を消します。」「歯をみがいている間、わたしはぼくは……水道を止めます。」など、日常生活の中で環境のためにできることを、子どもたちも考えながら読み進んでいく楽しい仕掛け絵本の読み聞かせだった（図6）。



図6 環境に関する本の読み聞かせ

サ 教室照明器具の清掃

教室照明器具の清掃を12月の職員作業で実施した（図7）。蛍光灯の反射板が長年使用している間に汚れており、真っ黒になった雑巾を見て「こんなに汚っていたんだ。」と驚きの声が上がった。そして、清掃前後に教室の照度を測定したところ、587ルクスから630ルクスに上昇しており、照度アップに役立った。今回は、全校児童が利用する図書室の照明器具の清掃を行ったが、今後は、その他の教室でも順次実施していく必要があると考える。



図7 教室照明器具の清掃

(6) エコに関する教職員対象のアンケート第2回調査実施（10月）の結果と分析

5月から年間計画に基づく取組を実施したことによる教職員の意識の変化について、10月にアンケート調査を実施した。2回のアンケート調査の結果の比較を図8から図12に整理した。

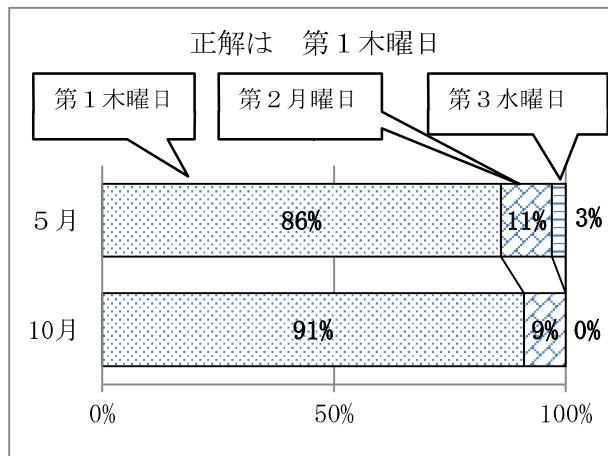


図8 毎月1回ある古紙回収日はいつかご存じですか

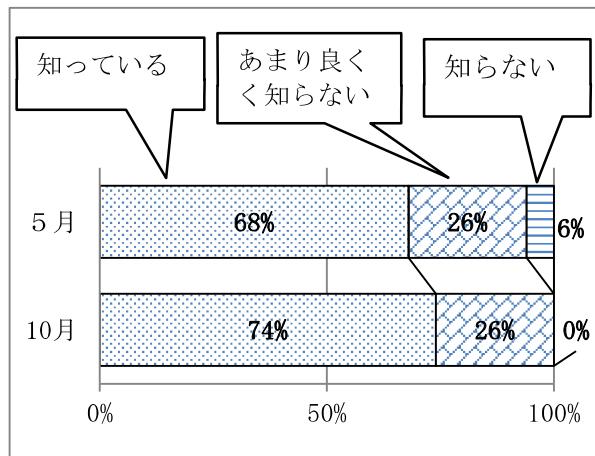


図9 エコボーナスを知っていますか

全教職員による取組を実施したことや、学校事務職員が発行している「事務だより」を活用して、情報の共有化を図ったことにより、図8の古紙回収日（毎月第1木曜日）の認知度や図9の「エコボーナス制度」の認知度は、第1回目のアンケート調査に比べると2項目ともに高くなり、「エコボーナス制度」については「知らない」と回答した教職員が0%となった。また、教職員から、「エコボーナスでこんな備品を購入したい」「子どもたちの教育環境をよくしたい」といった声が事務職員にたくさん寄せられ、教職員の「エコボーナス制度」に対する関心度も高まった。

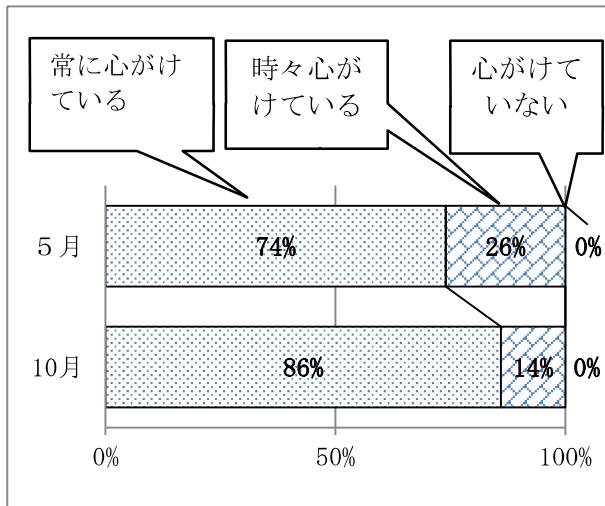


図10 節電・節水を心がけていますか

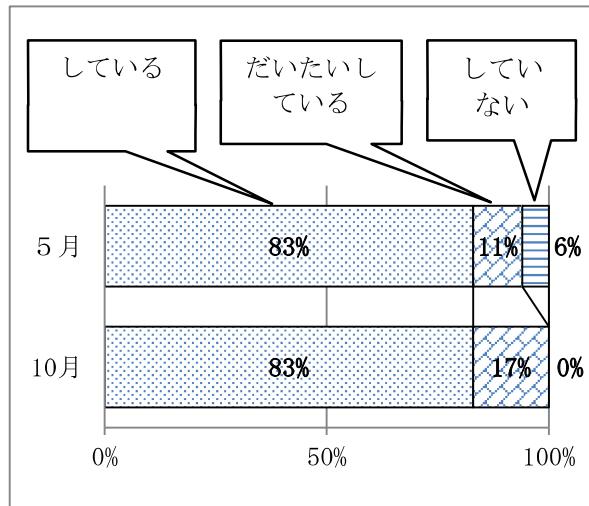


図11 印刷ミスをした用紙は捨てずに古紙や裏紙にまわしていますか

図10の節電・節水についてでは第1回目のアンケート調査において、「時々心がけている」と回答した教職員が全教職員の26%であったが、今回のアンケートでは14%と減少し、「常に心が

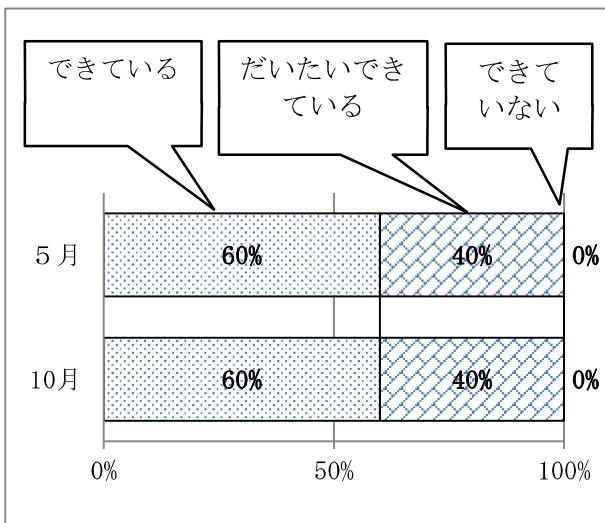


図 12 ごみの分別はできていますか

にはごみの分別ができている様子がうかがえた。

今回のアンケート結果から、エコに関する取組を学校全体で行うことにより、教育環境整備が進み、教職員のエコに関する意識が向上したことが分かった。

また、教職員の意識の向上とともに、4月から11月までの8か月分の電気使用量は、過去4年間の4月から11月までの平均電気使用量と比較すると、7,507kwh削減することができた(図13)。今回の研究により、組織の活性化につながり、限りある資源の効率的運用に成果があった。

(7) 「エコを視野に入れた教育環境整備の組織マネジメントモデル」の提示

学校事務職員として、財務の有効活用を目指すということは、学校事務職員だけで成し遂げられることではなく、人、物、金、情報、時間を統合し、調整しなければならない。全教職員による情報の共有、意見交換、連携、協働があつてこそ実現できるものと考える。

今回の研究では、組織マネジメントの手法である、P(計画)、D(実施)、C(検証・考察)、A(改善)サイクルを用いて財務の有効活用達成を目標に、今まで学校事務職員が行っていた財務事務の在り方の課題を探り、その課題解決に向けて全教職員でどのような取組を行うか、そして、どのような効果が期待できるのかを考えた。その結果、全教職員の理解を得るために学校事務職員が職員会議で年間計画の提案を行い、その年間計画を基に全教職員でエコを視野にいれて環境整備活動を実施し、職員会議において取組についての検証を行った。検証の結果、改善すべき点が見つかれば全員で考察する、また、成果があった項目は次年度につなげていくという組織的マネジメントモデルとしての、「生駒小型教育環境整備システム」を構築した(図14参照)。

「できている」と回答した教職員の割合が、74%から86%と高くなかった。また、図11の紙のリサイクルについてでは、「印刷ミスをした用紙を古紙や裏紙に回していない」と回答した教職員の割合が、全教職員の6%から0%になり、全教職員が紙のリサイクルについて意識していることが分かった。図12のごみの分別についてでは、第1回目と第2回目の回答それぞれの割合が同じとなった。そこで、アンケート実施後、ごみの分別について個別に聞き取り調査を行った。「だいたいできている」と回答した教職員の中には、「忙しい時には分別せずに捨ててしまうこともあるが、普段は分別できている。」という意見もあり、日常的

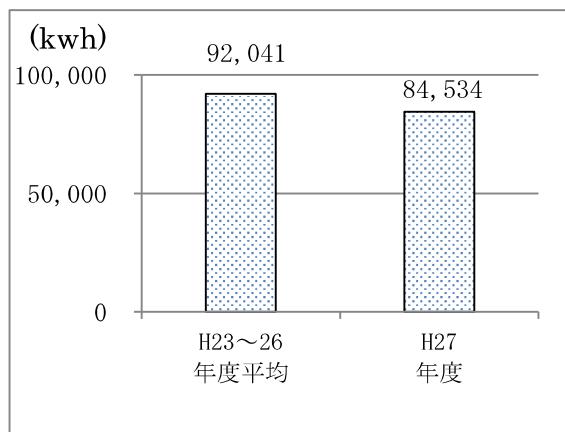


図 13 4月～11月までの電気使用量

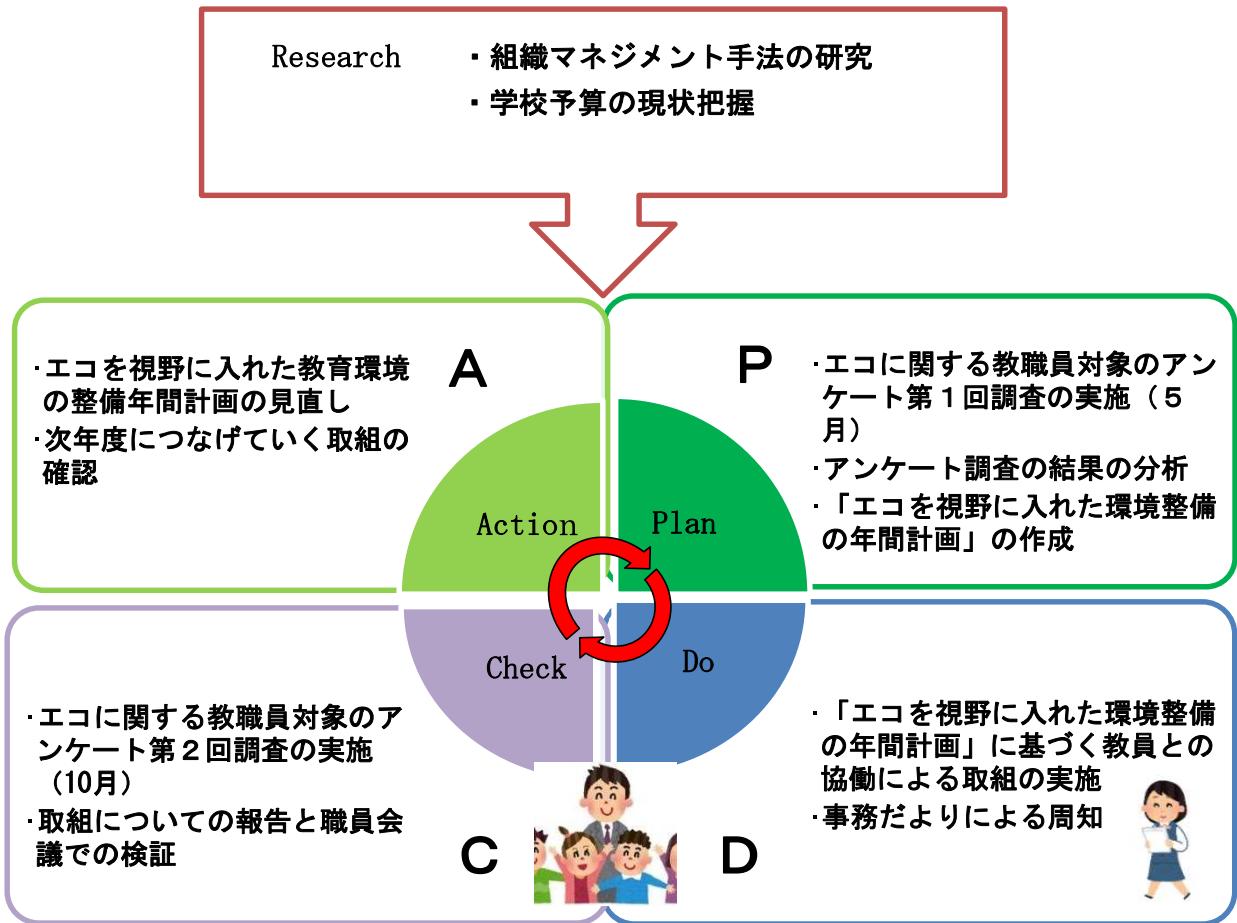


図 14 「生駒小型教育環境整備システム」

5 研究結果と考察

「生駒小型教育環境整備システム」の構築の結果、常に全教職員が組織マネジメントを意識して教育活動を行うようになった。例えば、管理職と学校事務職員の打合せを定期的に行うようになっている。その結果、校長からは、校長会での連絡事項の伝達を受けたり、教頭からは今後の学校行事の予定を聞いたり、学校事務職員からはエコに関する取組の進捗状況や学校予算の執行状況、教職員から聞いた施設設備に関する意見、給与説明会等の内容の報告をするなど、情報の共有化が図られ、職務を遂行していく上で見通しをもって実施できている。また、成果を可視化したことによる、教職員の目的意識の明確化や意欲の向上に大変有益なものとなっている。

研究を始めるまでは、教員の教育活動を見ながら、「学校事務職員としてできることはないか」を考え、学校行事や授業に必要な物品を、その都度気付くと臨機応変に対応し、準備するといった状態であったが、今回の実践で学校事務に対する教職員の理解を一層得ることができた。そして、教職員との協働によって、子どもたちのよりよい教育支援を行うという学校事務職員の果たす役割が明確になり、今後の財務事務に対する自身の意欲も向上した。

また、教員との何気ない会話の中から学校改善に役立つヒントをもらったり、仕事で行き詰ったときには、悩みを打ち明けることでの的確なアドバイスをもらったりすることもあった。そのよ

うなことから、職場内で良好なコミュニケーションをとることが組織の活性化につながることも実感した。

6 おわりに

「生駒小型教育環境整備システム」は、各学校の実態に合わせて活用できるものと考える。財務事務を通して行う組織マネジメントの一つのモデルとして今後提示していきたい。

現在、学校を取り巻く状況は大きく変化しており、多様化、複雑化する子どもの状況への対応や、学校教育の質的充実に対する社会的要請の高まりについての対応など、学校に対して様々な役割が求められている。そういう課題を解消するため、今までの学校文化を転換するための「チームとしての学校」（文部科学省中央教育審議会答申、2015）が注目されている。「チームとしての学校」の在り方とは、「校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子供たちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校」（文部科学省中央教育審議会答申、2015）のことをいう。

今後、学校の業務が一層複雑化、多様化することが考えられるが、学校事務職員は、そのような中、教育行政事務の専門性を有する者として、より広い視点に立って、教頭とともに校長を学校経営面から補佐する学校運営チームの一員としての役割が期待されている。

本研究を通して得られた成果を基に、有限である学校予算を有効に活用しながら、教育環境を整備し、子どもたちの安全・安心な学校生活を保障するために、情報を収集し、学校事務職員の立場から支援できることを考え実践していきたい。

参考・引用文献

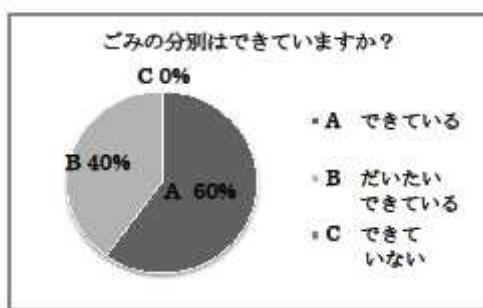
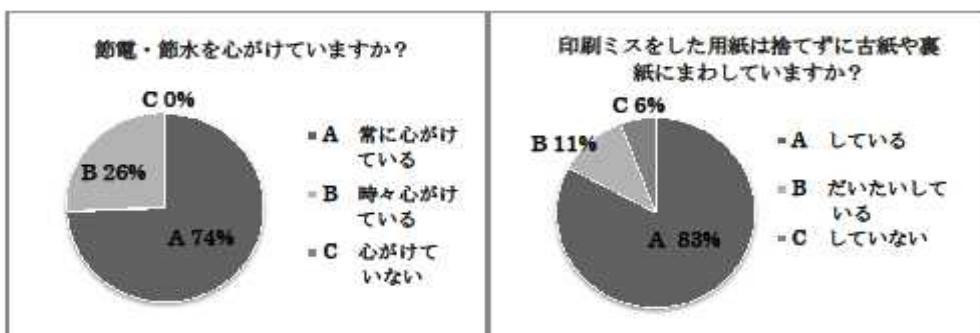
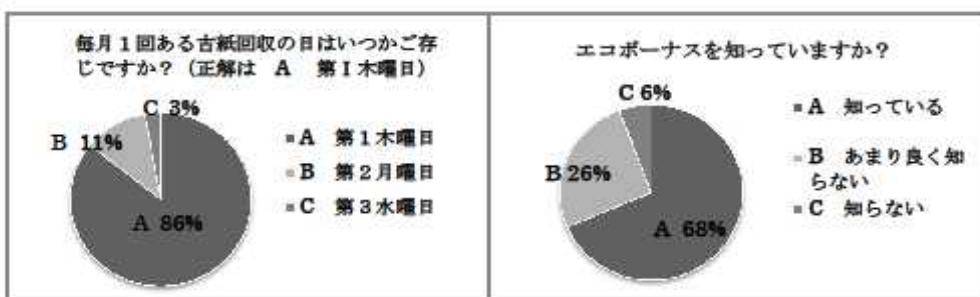
- (1) 生駒市『生駒市環境マネジメントシステムについて』<http://www.city.ikoma.lg.jp/>
- (2) 生駒市『エコボーナス』<http://www.city.ikoma.lg.jp/>
- (3) 竹沙知章（2012）「学校組織マネジメント指導者養成研修」「学校組織マネジメント資料」
- (4) 生駒小学校(平成 27 年 5 月)「エコに関するアンケート調査」
- (5) 生駒市「広報誌」(平成 27 年 12 月) <http://www.city.ikoma.lg.jp/> 『緑のカーテンコンテスト』
- (6) 全国公立小中学校事務職員研究会 <http://zenjiken.jp> 「学校財務実践事例集 2013」
- (7) 全国公立小中学校事務職員研究会 <http://zenjiken.jp> 「学校財務実践事例集 2014」
- (8) メラニー・ウォルシュ(2009)『わたしがぼくがちきゅうのためにできる 10 のこと』ひさかたチャイルド／チャイルド本社
- (9) 文部科学省 <http://www.mext.go.jp> /「平成 27 年 12 月 21 日中央教育審議会答申」「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」

資料1 エコに関する教職員対象のアンケート結果（第1回）

事務だより

2015.5.27

先日は、お忙しい中アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。
集計結果が出ましたのでご報告させていただきます！（職員数 35名 アンケート回収率 100%）

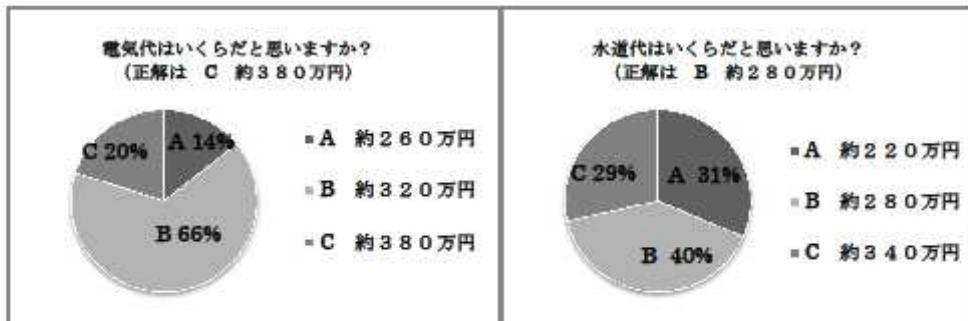


アンケート結果を見ると先生方が普段からエコ意識していただいているのがよく分かります。これからも予算に関する色々な情報をあらせていきます。先生方からもお気軽にご意見をいただけるとありがとうございます。
今年度、教育研究所の指定研究員を受けて財務に関する事を研究しています。少しでも学校が良くなるように努力ですが努力してまいります。どうぞよろしくお願いします。

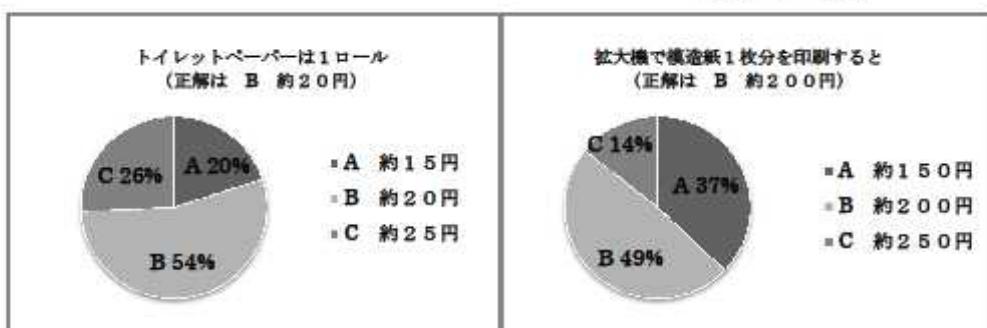
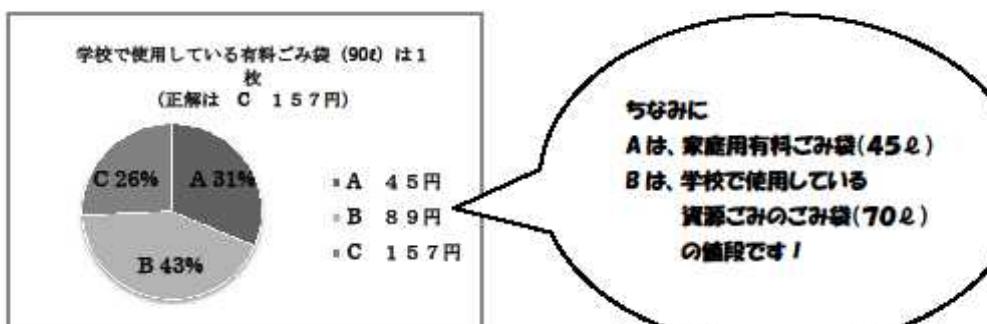
平成27年5月27日発行 「事務だより」（表面）

資料1 エコに関する教職員対象のアンケート結果（第1回）

◇生駒小学校の1年間の・・・・



◇たとえばこんな消耗品、いくらだと思いますか？



年間計画(エコを視野に入れた教育環境の整備について)

2015.7.1 事務部

資料2 エコを視野に入れた教育環境の整備年間計画

教員が行うこと 学校全体で行うこと		児童向けに行うこと	事務職員が行うこと その他の機関に依頼すること
5月	職員向けアンケート実施(1回目) 事務だよりによるアンケート結果の情報共有	校長先生からエコに関するお話(全校朝の会)	管理職と事務の打合せ(週1回) 事務だより作成(アンケート結果報告)
6月	グリーンカーテンの準備 事務だよりによるエコボーナスの情報共有 エアコンフィルターの定期的な掃除の実施 うさぎのエサの節約(家庭でいらなくなつた野菜くずなどを持ってきてもらう。)	ボランティア・エコ委員会へ光熱水費使用量の資料 提供	事務だより作成(エコボーナスの説明) 校舎内を巡回(掃除時間等で) 学童保育へエコについて協力依頼
7月	ミックスペーパーの収集 黒板クリーナーの定期的な掃除の実施(各学期末) 事務だよりによる節約のポイントの情報共有		ごみの分別・コピー機の便利な使い方などの説明図 作成 事務だより作成(節約のポイント) 水道蛇口の部品準備 HPに電気等の使用量を掲載
8月	グリーンカーテンの維持管理 水道蛇口の交換		
9月	事務だよりによる取組結果の情報共有		事務だより作成(取組の中間報告)
10月	職員向けアンケート実施(2回目)	光熱水費に関するクイズの掲示	光熱水費に関するクイズの作成
11月	事務だよりによるアンケート結果の情報共有	校長先生から環境に関する本の読み聞かせ	事務だより作成(アンケート結果報告)
12月	教室照明器具の清掃		
1月			6年生保護者奉仕作業でトイレ換気扇の掃除 (環境保全)
2月			
3月			
来年度 以降		文化鑑賞会で環境をテーマにしたものを作成する	

事務だより

2016. 6. 19

5月に行ったアンケートで「エコボーナスを知っていますか?」という質問をさせていただきました。3割ぐらいたの方から「あまりよく知らない」や「知らない」という回答がいたがございましたので、今回のエコボーナスについてご説明します！

「エコボーナスってなに？！」

エコボーナスは、生駒市の環境教育の一環として、児童生徒に環境問題について学ぶとともに、節電や節水等の生活で実感できるエコ活動に参加頂けたための奨励金付ける目的で実施されるものです。

エコボーナスは、平成24年度より配当されています。この制度が導入されて今年で4年目になりますが、その配当基準は、電気、光熱水費の節減額の半分を商品券で各学校に還元するというものでした。平成27年度も、光熱水費等の節減目標と環境教育の推進をポイントに実施し、その割合に応じて奨励金が決算されます。

平成28年度におけるは、次の2つの面からエコボーナスの配当額が決定され、教育活動のための商品購入費として配当されます。

(平成27年度における配当額が来年度を基に、平成28年度初回に一括)

① 節電削減量削減率に基づく配付
電気の過去4年間の平均使用量に対する削減額を全額配付。

② 環境教育の貢献度に基づく配付
各学校での環境教育の実績状況を評価し、予算額をその割合に応じて配当額を決定。
下記の箇題内容がポイントに採算されます。



- A エコ電資金の設置及びエコ活動の実績
- B 市の周辺施設を利用した環境教育の実績
- C 「エコキッズ」に多くの参加実績
- D 市役所出前講座の実績
- E その他の配組（NPO、企業等と連携した講座実施・他）
- F エコスクール登録及び活動の実績
- G 栄養のバランス

過去にはエコボーナスでこんな商品を購入しました！

平成24年度 配当額 156,000円

編みきローブ、白水マット(体育館用)、人工芝(体育館用)、書画カメラ

平成25年度 配当額 152,000円

モバイルフレゼンター、平均台、ロックミシン

平成26年度 配当額 143,000円

監視ローラー、書画カメラ

昨年度の生駒小学校の光熱水費の使用量は次のとおりでした。



電気代 3,782,666円 前年度より フィナス 17,779円



水道代 2,792,806円 前年度より フィナス 647,667円



ガス代 621,105円 前年度より フィナス 30,131円

その結果、今年度生駒小学校は482,000円のエコボーナスをいただきました！

工事を済ましたご改善としていたが、いたエコボーナスで、子ども達の教育環境を充実するための商品を購入し、有効に活用させていただけたと思います。
エコボーナスで購入を希望される商品があれども、事務までご連絡ください！
これからも、ムダをできるだけなくすく有効に予算を執行していただきたいと思います。
ご協力をお願いいたします！

資料4 取組の報告①

☆印刷室の掲示板をリニューアルしました！



印刷室に掲示物を貼る時、直接貼ると壁が剥がれて困っていました。運動会の応援囃子が使っているプラスチック段ボールからヒントをもらい、印刷室に取り付けてみました。青いプラスチック段ボールが掲示物を引き立ててくれています。掲示額には、光熱水費の使用量、便利なコピー・FMの機種、ごみの出し方等を載せています。印刷の合間にでもご覧ください！

お手伝いいただいた先生方、本当にありがとうございました！！

☆ミックスペーパーの結果、ありがとうございました！



7月の事務 darüberで、先生方の机付近で出るミックスペーパーを古新聞に入れ収集する方法をお願いしたところ、たくさんのお先生方にご協力いただきましす。私も古新聞にミックスペーパーを仕舞するようになって、大方、ごみ箱に入っているごみの量が減ったことに驚きました。引き続きご協力どうくお願いします！

☆緑のカーテン大活躍！

6月に教頭先生と教諭の谷口先生が園庭会前のベランダにプランターを置き、ゴーヤを植えてくださいました。夏休み前は、株数が多くたものの、教頭先生が愛情を込めてお世話してくださいましたおかげで、すくすくと成長し立派な緑のカーテンになりました！緑のカーテンがあるところと、ないところのベランダの気温を比較してみると、2℃の違いがありました！今年の夏は大変暑かったですが、緑のカーテンのおかげで、しっかりと日差しを遮ることができました！そして、ゴーヤは合計で215本収穫できました！



☆予算要状資料の提出・備品整理作業ありがとうございました！

夏休み中に各教科から備品の予算要求を擧げてもらいました。その資料をもとに8月末に予算金額を聞き、学校としての備品の要求額位を決定しました。10月初めには、備品監査等を含めた来年度の予算要状書を市教委へ提出します。

また、普段から「こんな備品があつたらしいなあ。修理した方がいいなあ。」など、備品や機器監査等で気付かれたことがありますから、教頭先生が事務までご連絡ください！

指定研究 中間報告

「組織マネジメントの手法を取り入れた府教導研」をテーマに、エコを深耕に入れれた教育環境について研究しています。今年度、先生方と協働して取り組むことによって、本校の教育環境が整備されてきました。10月にはアンケートを実施しますので、ご協力よろしくお願いします。

事務だより

2015. 9. 30

2学期が始まり平いもので1ヶ月が経ちました。26日の運動会はお天気が心配されましたが開幕に終了することができ本当に良かったです。暑い中の練習、本当にお疲れ様でした。

今回の奉公だよりでは、夏休み中に先生方と共に行つた取組を紹介させていただきます！

☆正門・北門に校舎案内図を設置しました！

教務の谷口先生が正門と北門に校舎案内図を設置してくださいました。今まで電話やインターネットで校舎の入口をたずねられることがよくあり、説明をするのに時間がかかっていました。



↑正門

↑北門

☆転出マニュアルを作成しました！ ここでです！



教務の谷口先生が「指導要領の記入欄」を作成、事務の吉田が「転出にかかる事務処理の流れ」と「転出書類を入れる封筒の記入例」を作成しました。各配入例はラミネートをして封筒や指導要領の用紙が入っている引き出しの最上段に入れています。どうぞご利用ください！

☆水道の蛇口を交換しました！

教頭先生が保焼管と平滑い管の蛇口(15箇所)をレバータイプのものに交換してくださいました！掃除の時間に手洗い場を使用している児童に声をかけてみると「使いやすくなつた！」と返事がえつてきました。使いやすくなつたし！で、こまめに水を止める習慣をつけてもらいたいと思います。引き続きご指導よろしくお願いします。



☆手洗い場にスポンジ入れを設置しました！

1学年にある先生から「手洗い場にスポンジを入れるカゴがあつたら、整理もできるし衛生的でいいのになあ。」という声があり、手洗い場を購入しました。カゴを置くことで子どもたちも片付けやすくなつたようです。手洗い場がとてもスッキリしました！



裏面につづく

資料6 児童向けエコクイズ

エコクイズ（問題のみ）

じ む り つ ち ょ う セ ん
事務室からエコクイズです！みんな挑戦してみてね！

一日、教室の蛍光灯をつけると電気代はいくらかかるかな？

- ① 約 50円
- ② 約100円
- ③ 約500円

生駒小学校の1日の電気代はいくらぐらいかな？

- ① 約12.000円
- ② 約16.000円
- ③ 約20.000円

15秒間、水を出しつなぎ手を洗うと水の量はどれくらいかな？
500mlのペットボトルで

- ① 約 1本分
- ② 約2.5本分
- ③ 約 3本分

生駒小学校で1か月に使う水の量はどれくらいかな？
生駒小学校の1人1日1杯で

- ① 約1杯分
- ② 約1.5杯分
- ③ 約2杯分

クイズの答えは、11/7のわくわくキッズの日に発表します。



電気や水は大切な資源です。大事に使いましょうね！



エコクイズ（回答あり）

じ む り つ ち ょ う セ ん
事務室からエコクイズです！みんな挑戦してみてね！

一日、教室の蛍光灯をつけると電気代はいくらかかるかな？

- ① 約 50円
- ② 約100円
- ③ 約500円

生駒小学校の1日の電気代はいくらぐらいかな？

- ① 約12.000円
- ② 約16.000円
- ③ 約20.000円

15秒間、水を出しつなぎ手を洗うと水の量はどれくらいかな？
500mlのペットボトルで

- ① 約 1本分
- ② 約2.5本分
- ③ 約 3本分

生駒小学校で1か月に使う水の量はどれくらいかな？
生駒小学校の1人1日1杯で

- ① 約1杯分
- ② 約1.5杯分
- ③ 約2杯分

ごたえ
2 約100円
安いと思ったら？
でも、学校では、いろいろな場所で電気を使っています。誰も使っていない教室やトイレでは水を消しましょうね！

ごたえ
2 約16.000円
生駒の1か月の電気代約12.000円
生駒小学校の1か月の電気代は約320.000円

ごたえ
2 約2.5本分
水は出しつなぎしないで、大事に使ってね！

ごたえ
2 約1.5杯分
1B. 1人が使う水の量は500mlのペットボトルでなんと 約74本分です。

ごたえ
2 約12.000円
1か月では平均 約240.000円

電気や水は大切な資源です。大事に使いましょうね！



